

平成23年大分県観光統計調査(1月～12月・確報)の概要

平成24年8月10日
大分県企画振興部観光・地域局観光・地域振興課

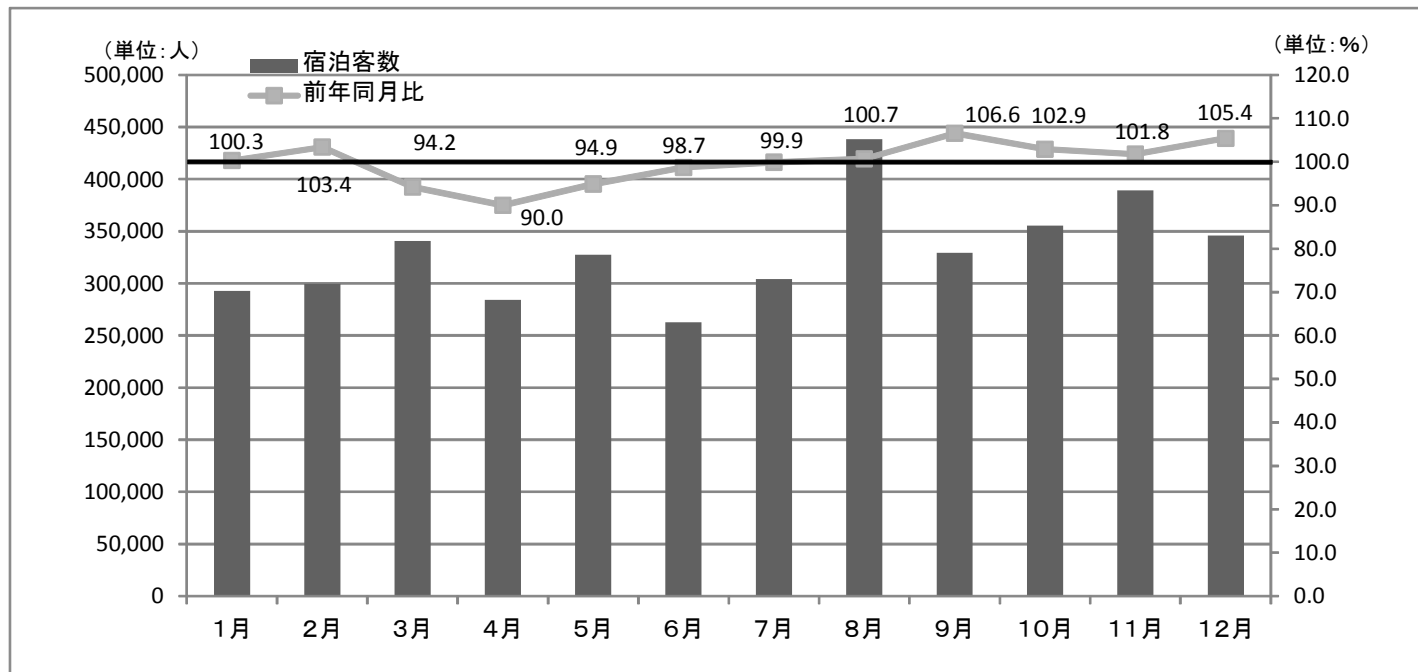
- ・平成23年の宿泊客数は397万人で、対前年比-0.1%(平成22年+7.3%)であった。
- ・宿泊客のうち、国内宿泊客数は375万人で、対前年比+3.7%(平成22年+2.4%)であった。居住地別では、福岡県からの宿泊客が最も多く、次いで大分県内、その他九州(県内・福岡県除く)・沖縄からの宿泊客の順であった。
- ・外国人宿泊客数は23万人で、対前年比-38.1%(平成22年+107.5%)であった。国籍別では、韓国からの宿泊客が最も多く、次いで台湾、中国の順であった。

1 平成23年の県内宿泊客の動向

平成23年の宿泊客数は397万人で、平成22年と比べ0.1%減少した。

3月の東日本大震災により、国内国外ともに一時減少したが、国内宿泊客は自粛ムードが回復し、西日本へシフトしたため増加したが、外国人宿泊客は円高等の影響もあり回復せず、全体として微減となった。

平成23年月別県内宿泊客数(確報)



2 国内宿泊客の動向

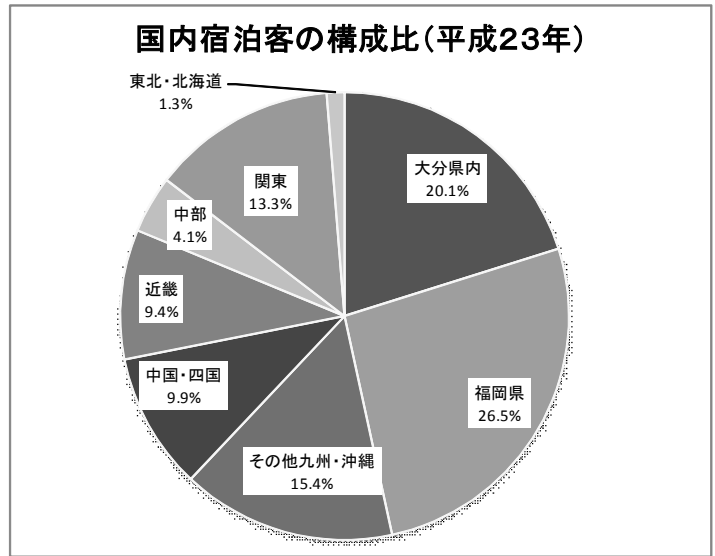
平成23年の国内宿泊客数は375万人で、平成22年と比べ3.7%増加した。

発地別の宿泊客の構成比では、福岡県からの宿泊客数は99万人で最も多く26.5%を占め、次いで大分県内が20.1%、大分県内、福岡県を除くその他九州・沖縄15.4%の順であった。

平成22年と比較すると、6割以上の構成比を占める九州内や、近畿、中国・四国、関東からの宿泊客が増加した。

表1 国内発地別宿泊客数

	宿泊客数 (人)	前年比 (%)
大分県内	754,395	+ 2.5
福岡県	990,832	+ 1.9
その他九州・沖縄	577,935	+ 0.8
中国・四国	369,016	+11.7
近畿	350,930	+13.4
中部	155,306	+ 6.0
関東	499,062	+ 1.9
東北・北海道	47,543	-11.6
国内宿泊客計	3,745,019	+ 3.7

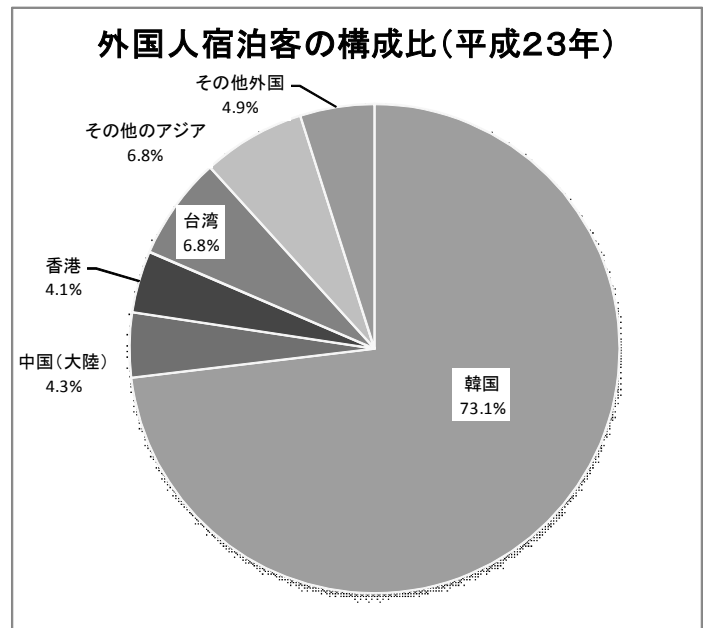


3 外国人宿泊客の動向

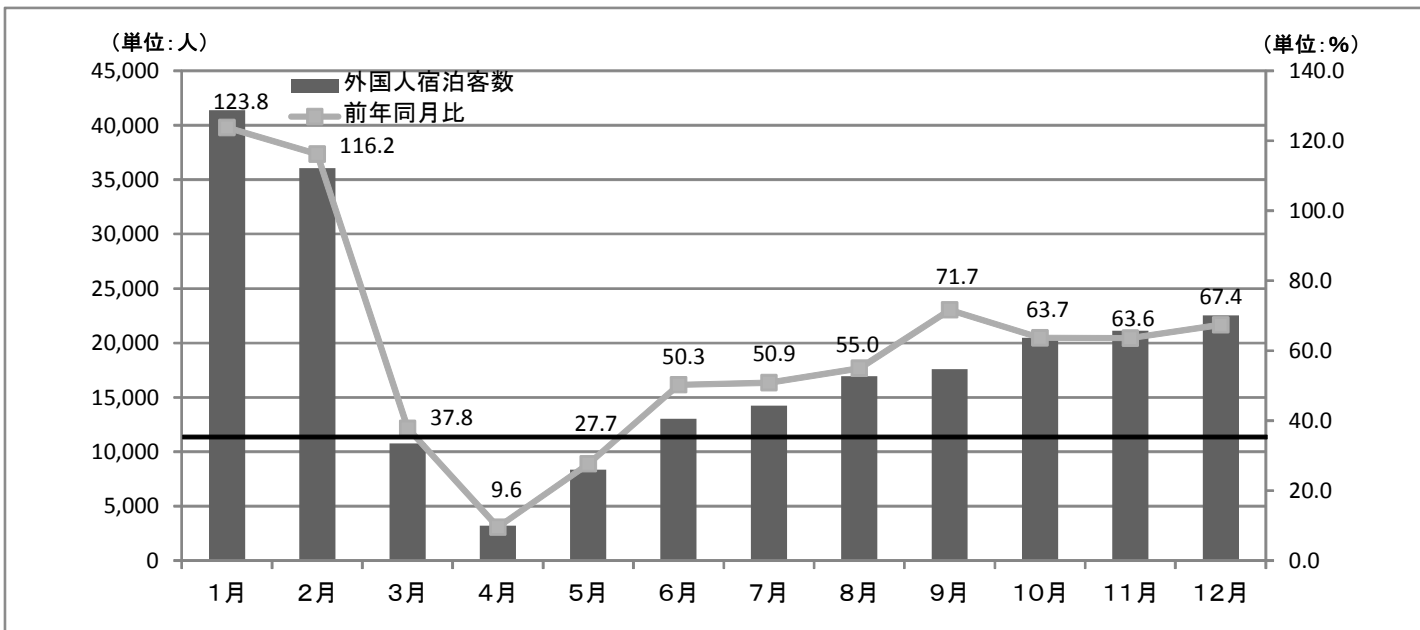
平成23年の外国人宿泊客数は23万人で、平成22年と比べて-38.1%と大幅に減少した。

外国人宿泊客の国籍別構成比をみると、韓国からの宿泊客が16万5千人で最も多く、外国人宿泊客全体の73.1%を占める。次いで台湾、中国の順であった。平成22年の構成比と比較すると、韓国は6.9ポイント減少した。

月別に宿泊客の動向をみると、3月以降は、前年を大きく下回っている。



平成23年月別県内外外国人宿泊客数



4 市町村別宿泊客

平成23年の市町村別宿泊客数で最も多いのは別府市で191万人、全体の48.2%を占める。対前年比では日田市、竹田市、由布市が増加している。

表2 市町村別宿泊客数

	宿泊客数(人)	構成比(%)	前年比(%)
大分市	708,889	17.9	- 0.1
別府市	1,914,245	48.2	- 0.5
日田市	256,742	6.5	+ 2.9
竹田市	124,131	3.1	+ 0.4
由布市	281,713	7.1	+ 9.0
九重町	140,116	3.5	- 5.4
その他の市町村	544,888	13.7	- 3.2
県計	3,970,724	100.0	- 0.1

5 県内交流客数

・ 有料観光施設(入場者数)	5,309,435人	(対前年比 - 3.8%)
・ 道の駅 (レジ打ち数)	3,515,183回	(同 - 5.5%)
・ 大分空港(乗降客数)	1,336,177人	(同 -11.3%)
・ 県内港湾乗降客数	1,685,178人	(同 + 0.5%)
・ 高速道路(1日の出入通過台数)	135,237台	(同 + 2.6%)

※有料観光施設は以下の28施設の入場者の合計

大分マリンパレス水族館「うみたまご」、高崎山自然動物園、スギノイパレス、アクアビート、セントレジャー城島高原パーク、ラクテンチ、別府・近鉄ロープウェイ、別府地獄組合、ハーモニーランド、大分県マリンカルチャーセンター、臼杵石仏、風連鍾乳洞、岡城趾、滝廉太郎記念館、稲積水中鍾乳洞、朝倉文夫記念館、くじゅう花公園、九州湯布院民芸村、福澤旧居・資料館、サッポロビール九州日田工場、地底博物館鯛生金山、昭和の町、富貴寺、真木大堂、熊野磨崖仏、九州自然博物公園アフリカンサファリ、安心院葡萄工房、国東市歴史体験学習館「弥生のムラ」